

動物園の獣医（どうぶつ園のじゅうい） あらすじ・ポイントを解説

動物園の獣医（どうぶつ園のじゅうい）あらすじ

「どうぶつ園のじゅうい」は、どうぶつ園で どうぶつの びょうきやけがなどを なおす じゅういさん（どうぶつの おいしゃさん）である 植田美弥（うえだみや）さんが かいた 文しょうだよ。

どうぶつ園の じゅういさんは どのように どうぶつたちを びょうきやけがから まもっているのか、1日のしごとを くわしく せつめいしてくれているよ。



どうぶつ園のじゅうい

どうぶつ園のじゅういの わたしのしごとは、どうぶつたちが 元気に
くらせるようにすることです。

元気なときの どうぶつのようにすを見て、びょうきにすぐ気づくように
しています。

わたしの顔とこえになれてもらって、いたいところや つらいところを
あんしんして 見せてくれるようにもしています。

おなかに赤ちゃんがいるいのしし、くすりをのまないにほんざる。
はぐきのはれたワラビー、ボールペンをのみこんでしまったペンギン。
いろいろなどうぶつを ちりょうします。

一日のしごとのおわりには、日記を書いて、よりよいちりょうが
できるようにします。

どうぶつ園を出る前には、おふろで体をあらって、人間のびょうきの
もとに なるものを もち出さないように きをつけます。

これが どうぶつ園のじゅういの わたしの一日のしごとです。



動物園の獣医（どうぶつ園のじゅうい）内容とポイント

どうぶつ園のじゅういの しごととりゆう

植田美弥さんは、どうぶつ園のじゅういの しごとは、どうぶつたちが元気にくらせるようにすることだと 書いているね。

「どうぶつ園のじゅうい」では、どうぶつの けんこうを まもるために、どんな しごとをしているのか、そして それはなぜか（りゆう）を せつめいされているよ。

しごと	りゆう
元気なときの どうぶつのようにすを見ておく	びょうきになったとき、すぐに気づくことができる
「わたし」の顔を見せて、なれてもらう こえを おぼえてもらう	いたいところや つらいところを あんしんして見せてくれるようにする
できごとや、気がついたことを、日記に書く	つぎに同じようなびょうきやけがが あったとき、よりよいちりょうを することができる
どうぶつ園を出る前に、かならずおふろに入る	どうぶつの体には、人間のびょうきのもとになるものが ついていることがあるから



元気なときの どうぶつのようすを見ておく



どうぶつ園の じゅういさんは、朝、どうぶつ園の中を 見回るね。

そのとき、どうぶつたちの ふだんの元気なようすを 見ておけば、もし どうぶつが びょうきになったり、けがをしたときに、「あれ？いつもとちがうな」と へんかに 気がつくことができるね。



顔とこえを おぼえてもらう



どうぶつ園の中を 見回るときに、できるだけ どうぶつたちに じぶんの顔を みせて、「おはよう。」と はなしかけることで こえも おぼえてもらうんだね。

そうすれば、どうぶつたちは「あ、この人、知っているな。」「この人はしんようしても だいじょうぶだな。」と なれて、あんしんしてくれるね。

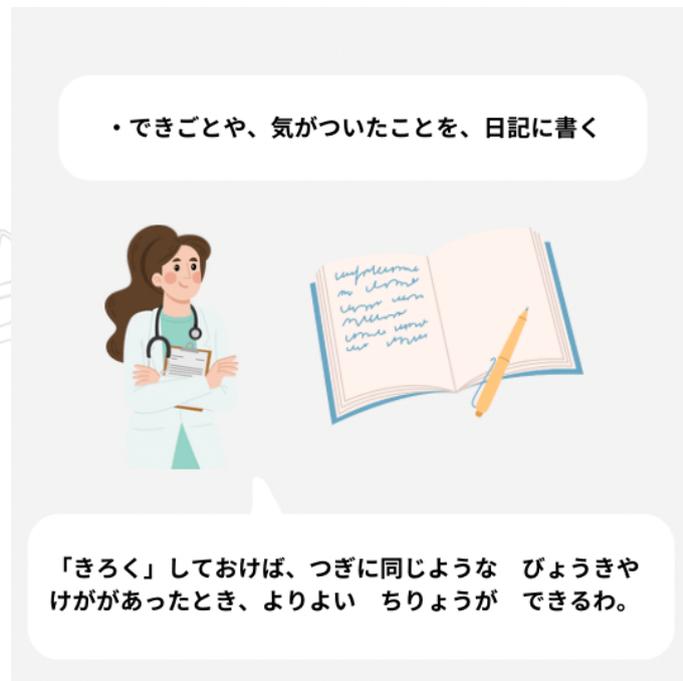
どうぶつたちは、知らない人には、「いたいところ」や「つらいところ」をかくすんだよね。

これは、もし その人が じぶんの「てき」だったときに、じぶんの よわいところを しられないように するためだね。

だから、どうぶつたちに 顔やこえを おぼえてもらわないと、もし どうぶつたちが びょうきをしたり、けがをしても、気がつかなくなってしまうよね。



できごとや、気がついたことを、日記に書く



その日にあった できごとや、気がついたことを 日記に きろくしておけば、同じことが あったときに、「こうしたら だいじょうぶだったよ!」と すぐに 気がつくことが できるよね。

はんたいに、「こうしたけど、だめだった」と わかっていれば、同じ しっぱいは しないよね。

こうして、きろくを のこしておくことで、どうぶつ園の じゅういさんは、「よりよい ちりょう」を しようと くふうしているんだね。



どうぶつ園を出る前に、かならずお風呂に入る



どうぶつ園の じゅういさんは、一日のしごとが おわっても、「じゃあ、おうちにかえろう！！」というわけには いかないんだ。

どうぶつのからだには、人間にとって びょうきのもとになるものが ついているときもあるんだ。

もし、その びょうきのもとを、どうぶつ園の外に もち出してしまったら、びょうきが はやってしまって、たくさんの人が こまってしまうかもしれない。

だから、どうぶつ園の じゅういさんは、一日のおわりに かならず お風呂に入って、びょうきのもとになるものを きれいに あらいながすんだよ。

じゅういさんの しごとには、ちゃんと りゆうや ねらいが あるんだね！



どうぶつの びょうきや けがの ちりょうについて

「どうぶつ園のじゅうい」では、どうぶつ園で、じっさいに どうぶつたちの びょうきや けがを ちりょうしたことを くわしく せつめいしてくれているよ。

びょうきや けがなど	ちりょうの くふう
赤ちゃんがいるかもしれない いのしし	えさをあげているあいだに きかいを そっと おなかに当てた
くすりをのまない にほんざる	くすりを こなにして、はちみつに まぜてあげた
はぐきのはれた ワラビー	三人の しいくいんさんにおさえてもらって ちりょうした
ボールペンをのみこんだ ペンギン	くすりをつかって はき出させた

赤ちゃんのいる「いのしし」



赤ちゃんのいる「いのしし」のはなしでは、じゅういさんは 何をしたのかな？



しいくいんさんは、いのししのおなかに 赤ちゃんがいるかどうか、しらべて ほしかったんだよね。

だって、まだ おなかが大きくならないときは、外から見ても 赤ちゃんがいるかどうか わからないよね。

見えないおなかの中を しらべるには、とくべつな「きかい」を おなかに当ててしらべればよいね。

でも、いのししにとって、「きかい」は なれていなかったら、とても こわいものかもしれないよね。

そんな「きかい」をおなかに当てたら、いのししがこわがるかもしれないよね。

だから、しいくいんさんと じゅういさんは いのししにえさをたべさせている間に、そっと「きかい」を おなかに当てるようにしたよ。

えさをたべるのに おちゅうなときなら、「きかい」に 気がつかないので、いのししを こわがらせなくて しらべることが できるからね。



けがをした「にほんざる」



にほんざるのおはなしでは、けがをした にほんざるが、くすりを のまなくて こまっていたね。

くすりを のんでくれないと、けがが なかなか なおらなくなってしまいうよね。

でも、くすりは にがくて、にほんざるは にがいあじは きらいだから、えさに まぜても、くすりを のんでくれないんだったね。

くすりをこなにして、半分に切ったバナナにはさんでも、にほんざるは かしこいので、くすりのところだけをよけて、たべてしまったね。

なので、じゅういさんは、もっと くふうして、はちみつの中に くすりを 入れてみたね。

そうしたら、にほんざるは はちみつと いっしょに くすりを のんでくれたね。



はちみつは あまいから、くすりの にがさが わからなくなったのかも
しれないね。

はぐきをはれたワラビー



はぐきが はれた ワラビーの おはなしでは、はぐき ぬけかわるときに
ばいきんが 入ってしまったって こまっていたね。

なぜなら、はぐきの ちりょうは、とても いたいから、ワラビーが あば
れてしまうかも しれないんだ。

ちりょうには ナイフや はさみなども つかうから、ワラビーが あばれ
たら、ワラビーも、じゅういさんも けがをしてしまうかもしれない。

だから、三人の しいくいんさんに、ワラビーを おさえてもらって、ちり
ょうをしたんだね。



ボールペンをのみこんだペンギン



ボールペンを のみこんでしまった ペンギンの おはなしでは、ボールペンを どうやって とり出したのか 書かれているね。

どうして ペンギンが ボールペンを のみこんでしまったのかというと、「えさ」と まちがえてしまったんだよね。

でも、ボールペンが おなかに入ったままにしたら、ペンギンの いのちがあぶないよね。

だって、ボールペンが おなかの中の たいせつなぶぶんを きずつけてしまうかもしれないからね。

じゅういさんは、ペンギンに くすりをのませて、ボールペンを はき出すように したよ。

ぶじに ボールペンが出てきたので、みんな ひとあんしんしたね。

じゅういさんは、それぞれの びょうきや けがに あわせて、いろいろくふうして ちりょうしているんだね！



動物園の獣医（どうぶつ園のじゅうい）ことばの意味

「どうぶつ園のじゅうい」で つかわれている ことばのいみを まとめて いるよ。

ことば	意味
じゅうい	びょうきやけがをしたどうぶつをなおしてくれるおいしやさん。
ちりょう	びょうきやけがをなおすこと。
見回る	いろいろなところをあるいてみてまわること。
ふだん	いつもやっているようす。
なれる	くりかえしているうちに、じょうずになったり、あんしんしてできるようになること。
りゆう	なぜそうするのかのわけ。
しいくいん	どうぶつえんやびょういんでどうぶつのおせわをするひと。
いのしし	やまやもりにすんでいる、おおきなぶたににたどうぶつ。
さぐる	みえないものをみつけるために、てやものをつかってしらべること。
そっと	しずかに、やさしくするようす。
にほんざる	にほんにいる、かしこいざるのいっしゅ。
よける	あぶないものやじゃまなものをひきさけること。
ワラビー	カンガルーににたちいさなどうぶつ。
はぐき	はのまわりにあるやわらかいところ。
はれる	からだのいちぶがふくらんでいたくなること。
ぬけかわる	ふるいけがわやはがぬけて、あたらしいものにかわること。
ばいきん	びょうきをおこすちいさなむしのようなもの。
あばれる	つよくてあらっぽくうごきまわること。
ペンギン	みずのなかでおよぐのがじょうずなとり。
丸ごと	ぜんぶをそのまま。
いのちにかかわる	しんだり、たいへんなことになるかもしれないこと。
はかせる	れかに、くちからなにかをださせること。
手当て	けがやびょうきをなおすためのしよち。
きろく	おぼえておくために、かいたり、のこしたりすること。
よりよい	いまよりもっといいこと。
もち出す	ものをどこかからもっていくこと。
ようやく	ながいあいだまってやっとのこと。

